

日本大学の現況と課題

—全学自己点検・評価報告書2012—

(大学・短期大学部・専門学校)

点検・評価結果及び改善意見

【生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科】



日本大学

目 次

総合的な点検・評価結果

I. 理念・目的	1
II. 教育研究組織	4
III. 教員・教員組織	7
IV. 教育内容・方法・成果	13
IV-1 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針	13
IV-2 教育課程・教育内容	18
IV-3 教育方法	21
IV-4 成果	26
V. 学生の受け入れ	29
VI. 学生支援	33
VII. 教育研究等環境	36
VIII. 社会連携・社会貢献	41
IX. 管理運営・財務	43
IX-1 管理運営	43
IX-2 財務	45
X. 内部質保証	47
評定一覧表	51

I. 理念・目的

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

【評価の視点】

- ① 理念・目的の明確化
- ② 個性化への対応
- ③ 大学の理念「自主創造」の能力を持つ人材の育成

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

本学部は、生物すなわち動物・植物・微生物とそれらに由来する生物資源や自然環境に係わる教育研究を行う学部として、「生産・利用科学」「生命科学」「環境科学」の3本柱と、それらを取り巻く人間活動を教育の基本理念とし、21世紀の諸問題に対処していく科学技術と人材を幅広く育成することを目的としており、理念・目的とも明確化している。そして、教育方法では、講義科目と同名の実験・実習科目を配置して、一人ひとりが体験によって理念を修得できるような授業体系（フィールドサイエンス教育という）をとっており、この授業体系は、多様な学生への対応が可能な体系である。

多数の学生が同時にしかも一斉に聴く講義と異なり、実験・実習は一人ひとりの創意工夫が必要であり、本学部の「フィールドサイエンス教育」によって、自主創造の能力開発を行っている。

〈生物資源科学研究科〉

本研究科は、研究テーマである「動物や植物、また微生物を含めた命あるすべてのものの生産と利用、それによる修復と共生」を解決することを目的とし、研究の目的別に生物資源の生産科学専攻、利用科学専攻、生命科学専攻、環境科学専攻、経済学専攻の5専攻で構成されている。これによって、研究の対象別に分散しがちであった知識や技術を集約し、効率の高い研究手法を用いることが可能となるなど、理念・目的が明確化している。生物資源科学部10学科から前述の5専攻のいずれにも進学が可能となっており、多様な学生への対応が可能となっている。

〈獣医学研究科〉

本研究科は、犬や猫などの家庭動物、牛、豚や鶏などの生産動物の疾病の診断、治療や予防、ヒトと動物の共通感染症の解明と予防、さらには野生動物や水棲動物の生態、形態や機能の解明などを主な研究テーマとしている。これらの研究課題を通して優れた知識や技術を有する臨床獣医師や専門家の養成を目的としており、適切かつ明確に設定されている。

【点検・評価項目】

(2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

【評価の視点】

- ① 構成員に対する周知方法と有効性
- ② 社会への公表方法

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

学部の理念・目的は、可能な限りの媒体を使って周知を図っている。まず、学生及び教職員個人に配布する学部要覧（p. 6～7）、毎年配布する学生手帳（p. 5）に明記して、毎年度始めに実施するガイダンス時に教員によって説明を行い周知している。また、学部ホームページの冒頭に学部長挨拶とともに教育コンセプトとして記載し、学生・教職員にはもちろんのこと、社会への周知も行っている。

また、学部ホームページの「教育情報」には、学科ごとに教育研究上の目的を明示して周知を図っている。

さらに、受験生用の「生物資源科学部ガイドブック」にも教育理念・目的を明記して受験生や保護者に対する周知を行っている。

〈生物資源科学研究科〉

本研究科の理念・目的は、可能な限り各種の媒体を使って周知を図っている。まず、大学院学生及び教職員個人に配布する大学院要覧、大学院ガイドブックに明記して周知を図っている。また、毎年7月中下旬に実施する大学院説明会で、5つの専攻の専攻主任が各専攻の理念・目標及び専攻の内容などを説明し、周知している。また、学部ホームページの大学院のページに研究科及び専攻ごとに理念・目標を掲載して大学院学生・教職員とともに社会への周知も行っている。

また、学部ホームページの「教育情報」には、研究科と専攻ごとに教育研究上の目的を明示して周知を図っている。

〈獣医学研究科〉

本研究科の理念・目的は、可能な限りの媒体を使って周知を図っている。まず、大学院学生及び教職員個人に配布する大学院要覧、大学院ガイドブックに明記して周知を図っている。また、毎年7月中下旬に実施する大学院説明会で専攻主任が専攻の理念・目標及び専攻の内容などを説明し、周知している。また、学部ホームページの大学院のページに研究科及び専攻の理念・目標を掲載して大学院学生・教職員とともに社会への周知も行っている。

また、学部ホームページの「教育情報」には、研究科と専攻の教育研究上の目的を明示して周知を図っている。

【点検・評価項目】

- (3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

【評価の視点】

- ① 学内外からの意見聴取

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

組織による定期的な検証は行っていない。しかし、毎年実施している新入生による

「就職する場合の希望業種」アンケート調査の結果から、学科別の希望業種と学部・学科の教育コンセプトの整合性が検証できる。それによるとミスマッチが少なく、理念・目的の適切性は妥当と評価される。

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

組織による定期的な検証は行っていない。

2. 点検・評価

〈効果が上がっている事項〉

〈生物資源科学部〉

教育理念や目標の周知は、媒体や方法が適正であり、在学生や社会に正しく周知されている。

3. 将来に向けた発展方策

〈効果が上がっている事項〉

〈生物資源科学部〉

各学科は、カリキュラム改正後の完成年度の前年から、カリキュラム改正後の検証と次期カリキュラムへ向けての検討を実施しており、その内容の検証と共に学部の教育理念や目標との整合性、あるいは受験生の希望や社会的ニーズとの整合性を検討し、それを教育に反映させている。

4. 根拠資料

〈生物資源科学部〉

学部要覧 p. 6～7

学生手帳 p. 5

学部ホームページ

教育コンセプト <http://www.brs.nihon-u.ac.jp/point/concept.html>

学部長挨拶 <http://www.brs.nihon-u.ac.jp/message.html>

教育情報 <http://www.brs.nihon-u.ac.jp/education/education.html>

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

大学院要覧 p. 2～3

大学院ガイドブック

学部ホームページ

研究領域と特徴 <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~gs/kenkyu.html>

研究科長挨拶 <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~gs/hajime.html>

大学院研究科における教育研究上の目的

http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~gs/object_main.html

教育情報 <http://www.brs.nihon-u.ac.jp/education/education.html>

Ⅱ. 教育研究組織

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

【評価の視点】

- ① 教育研究組織の編制原理
- ② 理念・目的との適合性
- ③ 学術の進展や社会の要請との適合性

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

学部の基本教育コンセプトである「生産・利用科学」「生命科学」「環境科学」の3本柱とそれらを取り巻く人間活動について、講義科目と同名の実験・実習科目を配置して、一人ひとりが体験によって理念を修得できるような授業体系、すなわちフィールドサイエンス教育を実施することを教育研究組織編製の原理としている。

大学の教育は、新しい研究に裏付けられたものでなければならず、常に学術の発展や社会的な要請に即応できるように下記の教育研究機関を設立して対応を行っている。

平成10年	生命科学研究センター設立	(生命科学分野)
平成13年	生物環境科学研究センター設立	(環境科学分野)
平成14年	海洋生物資源教育研究センター設立	(生産科学分野)
平成16年	動物医科学研究センター設立	(獣医学分野)
平成22年	先端食機能研究センター設立	(利用科学分野)

〈生物資源科学研究科〉

本研究科は、「生物資源生産科学専攻」「生物資源利用科学専攻」「応用生命科学専攻」「生物環境科学専攻」及び「生物資源経済学専攻」の5専攻で構成されており、各々の専攻には、教員と大学院学生が共同で研究教育を行う施設として下記の施設を設置して、教育研究の充実を図っている。

生物資源生産科学専攻	—農場・牧場・演習林	海洋生物資源教育研究センター
生物資源利用科学専攻	—食品加工実習センター	先端食機能研究センター
応用生命科学専攻	—生命科学研究所	
生物環境科学専攻	—生物環境科学研究センター	
生物資源経済学専攻	—国際地域研究所	

〈獣医学研究科〉

生物資源科学部、大学院生物資源科学研究科及び大学院獣医学研究科は基本的に一体となっているため、研究科に特化した委員会はなく、大学院入試委員会のみである。しかし、学部委員会は、必要に応じて、研究科の内容も検討事項としている。各委員会の検討結果は、専攻主任会及び分科委員会において報告又は審議される。

大学院生物資源科学研究科及び大学院獣医学研究科の専攻主任会及び分科委員会は、合同で行っている。

【点検・評価項目】

(2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

【評価の視点】

① 委員会等の設置状況，運営状況

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

本学部には，大学の教育職組織規程に基づく第1区分，第1区分以外の規程又は法令に基づく第2区分及び第1，第2区分以外で必要とする常置又は臨時の第3区分の3つの区分の委員会が設置されている。それぞれには5委員会，27委員会及び21委員会が開設されている。第1区分の委員会は，本学部の全11学科，一般教養及び短期大生物資源学科の学部関連全分野から少なくとも1名以上の教員で構成されており，学部の諸問題を共有できるように配慮されている。問題のある場合は必要に応じて，各学科にフィードバックして意見を徴している。各委員会は，8月を除き，月1回以上開催されている。

すべての委員会は開催ごとに所管課所属の幹事が議事録を作成している。毎年3月にその年度の委員会開催・運営状況を議事録により検証して，次年度の委員会の設置の参考としている。

〈生物資源科学研究科〉

生物資源科学部と大学院生物資源科学研究科は基本的に一体化しているため，研究科に特化した委員会は特に設置されておらず，唯一，大学院入試委員会のみである。しかし，学部委員会は，必要に応じて，研究科の課題等も検討している。各委員会の検討結果は，専攻主任会及び分科委員会において報告又は審議される。

〈獣医学研究科〉

生物資源科学部，大学院生物資源科学研究科及び大学院獣医学研究科は基本的に一体となっているため，研究科に特化した委員会はなく，大学院入試委員会のみである。しかし，学部委員会は，必要に応じて，研究科の内容も検討事項としている。各委員会の検討結果は，専攻主任会及び分科委員会において報告又は審議される。

大学院生物資源科学研究科及び大学院獣医学研究科の専攻主任会及び分科委員会は，合同で行っている。

2. 点検・評価

〈効果が上がっている事項〉

〈生物資源科学部〉

平成23年度は5委員会を廃止し，教員の負担を軽減した。第一区分においては，委員会の協議事項を各学科にフィードバックして多くの教員から意見を徴することができる。また，第2区分及び第3区分の協議結果も，委員会の議事録をもとに各担当が学科主任会，教授会においてその都度報告しており，教員の共通認識を高めている。

〈生物資源科学研究科〉

学部委員会での検討により多くの学部教員が、学部のみならず大学院についての共通意識を共有できる。

〈改善すべき事項〉

〈生物資源科学部〉

委員会数が多く、教員に過度の負担を強いているため、さらなる委員会数の減少が必須である。

年間の委員会開催回数が少なく、十分に機能していない委員会がある。

3. 将来に向けた発展方策

〈改善すべき事項〉

〈生物資源科学部〉

委員会数及び1委員会あたりの委員数の減少による教員負担の軽減が必要である。

法令又は大学規程による委員会は学部では減少できないので、大学全体での対応が必要である。再雇用教員を委員会委員とすることで、現状の負担の増加は抑制できる。

4. 根拠資料

〈生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

学部委員会委員名簿，委員会議事録

Ⅲ. 教員・教員組織

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。

【評価の視点】

- ① 教員に求める能力・資質等の明確化
- ② 教員構成の明確化
- ③ 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

本学部の教育研究理念を十分に理解し、社会的要請の高い教育内容と高度で、多様性に富んだ研究への対応しうる人材であって、新たに出現する多岐にわたる課題に対して柔軟に対応できる教員を求めている。

設置基準上の学部教員数は、教授87名、准教授・専任講師・助教86名の173名である。現在の教員数は、教授105名、准教授・専任講師・助教124名の229名（平成24年5月1日現在）であって、設置基準に対して約1.32倍となっており、適正数を確保している。

各学科は、研究室単位又はコースごとに主要学科目を配置している。主要学科目の授業は主に教授（一部准教授）が担当し、関連科目を准教授・専任講師・助教が担当して分野ごとの教育に対して密な連携のもとに責任性を保っている。総合教育科目は、25名の教授、13名の准教授・助教が、それぞれの科目を担当し、専門教育と連携を図っている。

〈生物資源科学研究科〉

本研究科教員に求められる能力・資質等は、「日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規」にしたがって研究業績、教育実績、経歴、人物等をもとに総合的に判定するが、教員は、博士の学位を必須としている。本研究科は、5専攻から構成されており、いずれの専攻も設置基準を超える十分な数の教員が配属されている。専攻内におかれる分野は、㊦教授と科目担当の准教授・専任講師等で構成されており、密な連携の下に、教育研究を進めている。

〈獣医学研究科〉

本研究科の教員は、教育研究の目的に沿って選考しており、採用・昇格に当たっては本学所定の審査基準に則して厳正・公平な審査を行っている。担当教員は、博士の学位を持つことを必須としている。特に業績は、学部内規より高い基準を設けている。大学院設置基準を満たす教員32名が配置されている。

教員の日常的な教育・研究活動を恒常的に評価し、活性化を図っている。研究活動の評価方法には、研究者の科研費の申請・採択、外部資金の獲得、研究業績（発表論文数）などを勘案している。

【点検・評価項目】

(2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

【評価の視点】

- ① 編制方針に沿った教員組織の整備
- ② 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備
- ③ 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置（修・博士、専門職）

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

本学部における各学科の教員定員は実習助手を含めて、いずれも20名（獣医学科は54名）で、それぞれの学科の専門性に対応して少なくとも6以上の研究室に所属し、有機的に協力して教育研究を行っている。生物資源科学関連の各学科の設置基準上の定員は、教授5名、准教授・専任講師・助教5名で、各学科ともに基準を満たしている。獣医学科の設置基準上の定員は、教授14名、准教授・専任講師・助教14名の28名であるが、現在教授16名、准教授・専任講師・助教26名の42名と12名の助手で構成されている。授業科目担当者の決定システムは、まず、各学科において研究業績及び専門性等を勘案し、学科教授の署名捺印の上、学科主任の申請により教授会で審議して決定する。

〈生物資源科学研究科〉

本研究科は、5専攻から構成されており、さらに専門別に、それぞれの分野に細分化されている。各専攻には設置基準を満たす適正な数の大学院有資格教員が配置されている。研究科教員は、専攻・分野にふさわしい研究業績、学会活動等の有無について㊦教授全員で審査を行って、授業科目と適合性を判断し、最終的には、大学院分科委員会において承認される。

〈獣医学研究科〉

本研究科は、1専攻、6分野から構成されており、それぞれの分野に適正な数の大学院有資格教員が配置されている。研究科教員は、分野にふさわしい研究業績、学会活動等の有無について㊦教授全員で審査を行って、授業科目と適合性を判断し、最終的には、分科委員会において承認される。

【点検・評価項目】

（3）教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化
- ② 規程等に従った適切な教員人事
- ③ 教員の採用・昇格に関して日本大学の教育者・研究者として適正であるとの観点に基づいた選考

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

「生物資源科学部日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規」に準じて、すべての人事は行われている。採用、昇格及び再任は、学科教授の署名捺印の申請書を学科主任が学部に提出する。申請書をもとに人事委員会で協議し、適格と認められたものは、さらに学部長と人事委員会の面接を経て、教授会で審議して決定する。日本大学の教育者・研究者として適格性については、学部長・人事委員会の

面接において十分に審査されるとともに、学部長より本学における教育の理念・目標「自主創造」について、訓示される。

〈生物資源科学研究科〉

各専攻の㊦教授によって、候補者の大学院担当教員としての適格性について、研究業績、教育実績、経歴、人物等をもとに総合的に判定している。これらの基準は、日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規にしたがっており、適格者については、人事委員会、執行部会、大学院分科委員会の承認を経て決定される。日本大学の教育者・研究者として適格性は、学部長・人事委員会の面接で確認するとともに、学部長より大学院研究科教員としての教育研究のあり方を訓示している。

〈獣医学研究科〉

大学院獣医学研究科の㊦教授によって、当該教員の研究教育分野とその配置、大学院担当教員としての適格性について、候補者の研究業績、教育実績、経歴、人物等をもとに総合的に判定する。これらの基準は、基本的には、日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規に順じているが、業績については、内規を上回る基準を用いている。適格者は、人事委員会、執行部会、大学院分科委員会の承認を経て決定される。日本大学の教育者・研究者として適格性は、学部長・人事委員会の面接で確認するとともに、学部長より大学院研究科教員としての教育研究のあり方を訓示している。

【点検・評価項目】

(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。

【評価の視点】

- ① 教員の教育研究活動等の評価の実施
- ② ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と有効性

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

学部として、教員の教育研究活動等の組織的な評価は実施していない。しかし、学部ホームページを通じて全ての教員は各自Webにより研究者情報システムに登録していて、その結果は、全学期末監査や大学基準協会の監査の際に使用される。一方、学生による教員の授業評価は授業アンケートにより実施し、結果を数値化して、教員へフィードバックし、教員自身による評価の資料としている。また、日本技術者教育認定機構認定のJABEE資格（修習技術者）修得のためのコースが設けられている学科（海洋生物資源科学科と生物環境工学科）では、ベストティーチャー賞を設け教育活動の評価の1つとしている。さらに、多くの学科で専任教員、兼担教員及び非常勤教員を含めた教育懇談会を開催し、学生の成績から就職までの解析等を行うことにより教育方法について議論している。学部全体としての教員の資質向上を図るための方策としては、日本大学FD推進センターと一体になって学部のFD活動を推進することにある。日本大学FD推進センターより発行のLearning guideを全教員に配布するとともに、日本大学FD NEWSLETTERを全教員へ周知徹底した。学部全体として、FD活動は有効的には機能しているとはいえないため、秋にはティーチング・ポートフォリオの紹介を含む講演会を全教職員向けに開催予定であり、学外及び日本大学としてのFD活動を紹介し、教員の意識を高める。

〈生物資源科学研究科〉

研究科独自のFD活動は行っていないが、学部・短大及び大学院は一体となって教員の資質の向上を図っている。日本大学FD推進センターが発行のLearning guideを全教員に配布するとともに、日本大学FD NEWSLETTERを全教員へ周知徹底した。FD活動としては有効的には機能しているとはいえないため、秋にはティーチング・ポートフォリオの紹介を含む講演会を全教職員向けに開催予定であり、学外及び日本大学としてのFD活動の取組みについて、教員の意識を高めている。

〈獣医学研究科〉

研究科独自のFD活動は行っていないが、学部、短大及び生物資源科学研究科一体となり教員の資質の向上を図っている。日本大学FD推進センターより発行のLearning guideを全教員に配布するとともに、日本大学FD NEWSLETTERを全教員へ周知徹底した。FD活動としては有効的には機能しているとはいえないため、秋にはティーチング・ポートフォリオの紹介を含む講演会を全教職員向けに開催予定であり、学外及び日本大学としてのFD活動の取組みについて、教員の意識を高めることを行う。

2. 点検・評価

〈効果が上がっている事項〉

〈生物資源科学部〉

女性教員が3年間で10名増加し、助手を含めて26名となった。このことにより1学科を除いて全学科に女性教員が配属され、女子学生への対応が良化した。学部長及び人事委員会の面接を行ない、学部長より大学及び本学部における教員の教育研究のあり方を訓示しており、教員特に新任教員の帰属意識を高めている。

FD活動を積極的に行っているいくつかの学科（植物資源科学科、生命化学科、海洋生物資源科学科、生物環境工学科）においては、講義のレポートを学科教員全員でチェックするなどにより、所属教員間での学生の教学に関する事項についての共通認識が形成されている。

〈生物資源科学研究科〉

日本大学FD推進センターより発行のLearning guideを全教員に配布するとともに、日本大学FD NEWSLETTERを全教員へ周知徹底した。秋にはティーチング・ポートフォリオの紹介を含む講演会を全教職員向けに開催予定であり、学外及び日本大学としてのFD活動に取り組んでいる。

〈獣医学研究科〉

日本大学FD推進センターより発行のLearning guideを全教員に配布するとともに、日本大学FD NEWSLETTERを全教員へ周知徹底した。秋にはティーチング・ポートフォリオの紹介を含む講演会を全教職員向けに開催予定であり、学外及び日本大学としてのFD活動の取組みについて、周知している。

研究科教員の研究業績は、質、量ともに向上している。

〈改善すべき事項〉

〈生物資源科学部〉

学科及び研究室の教員の年齢構成にひずみがあり，更なる改善が必要である。

F D活動を積極的に行っている学科の数を増加させることが，改善すべきことである。

〈生物資源科学研究科〉

研究科独自の大学院教育に対するF D活動としての体制が構築されていない。

〈獣医学研究科〉

研究科独自の大学院教育に対するF D活動としての体制が構築されていない。教員の1部は，研究に力を注ぎすぎるあまり教育がおろそかになっている。

3. 将来に向けた発展方策

〈効果が上がっている事項〉

〈生物資源科学部〉

生物資源科学部教員の採用，昇格についての手続き，審査は極めて公正で，明確に行われており，今後も継続することが肝要である。

これまでF D活動への取組み状況に学科間の偏りがあつたが，全学F D活動とともに学部の活動に対して関心が増加している。

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

学部教育におけるF D活動に対する意欲が高まってきているので，これを大学院教育に対して実施する。

〈改善すべき事項〉

〈生物資源科学部〉

F D活動への関心を実行に移す方策については，学部F D委員会を中心にして議論しなければならないところである。現在活発にF D活動を行っている学科の取組みを学部全体の活動へと広げなければならない。

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

研究科独自の大学院教育に対するF D活動としての体制を整えなければならない。

4. 根拠資料

〈生物資源科学部〉

教員組織の現況

日本大学生物資源科学部教員の採用，昇格及び再任に関する内規
教育懇談会で作成した資料（植物資源科学科，生命化学科，海洋生物資源科学科，
生物環境工学科）

〈生物資源科学研究科〉

日本大学生物資源科学部教員の採用，昇格及び再任に関する内規

大学院担当教員一覧

〈獣医学研究科〉

日本大学生物資源科学部教員の採用，昇格及び再任に関する内規
大学院担当教員一覧
平成24年度大学院要覧

IV. 教育内容・方法・成果

IV-1 教育目標，学位授与方針，教育課程の編成・実施方針

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

【評価の視点】

- ① 学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示
- ② 教育目標と学位授与方針との整合性
- ③ 修得すべき学習成果の明示

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

学士課程の教育目標は，学部要覧に記載してある。また，学部ホームページの「教育情報」の項目において「学部の特徴—教育の考え方」として，「教育コンセプト」を明示し，さらに「教育研究上の目的について」の項目において，各学科の学士課程における教育目標を記載している。また，同じくホームページにおいて「入学者受入れ」「教育課程編成・実施」「学位授与」の3つのポリシーを明示し，教育目標と学位授与方針との整合性をはかっている。さらに修得すべき学習成果については，学位授与の方針に明示してある。

〈生物資源科学研究科〉

博士前期課程及び博士後期課程の教育目標は，大学院要覧及び大学院ガイドブックに記載してある。また，大学院を含む学部ホームページの「教育情報」における「教育研究上の目的について」の項目において，研究科及び各専攻の博士前期課程及び博士後期課程における教育目標を記載している。また同じくホームページにおいて「入学者受入れ」「教育課程編成・実施」「学位授与」の3つのポリシーを明示し，教育目標と学位授与方針との整合性をはかっている。さらに修得すべき学習成果については，学位授与方針に明示してある。

〈獣医学研究科〉

博士課程の教育目標は，大学院要覧及び大学院ガイドブックに記載してある。また，学部ホームページの「教育情報」における「教育研究上の目的について」の項目において，研究科における教育目標を記載している。また同じくホームページにおいて「入学者受入れ」，「教育課程編成・実施」，「学位授与」の3つのポリシーを明示し，教育目標と学位授与方針との整合性をはかっている。さらに修得すべき学習成果については，学位授与方針に明示してある。

【点検・評価項目】

(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

【評価の視点】

- ① 教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示

② 科目区分，必修・選択の別，単位数等の明示

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針については，学部ホームページに明示してある。すなわち，ホームページでは「教育課程編成・実施」のポリシーは「入学者受入れ」と「学位授与」のポリシーとともに明示し，教育目標と学位授与方針との整合性を踏っている。また，各学科において「履修モデル」を明示し，学習支援の一助とし，体系的な教育課程の編成について示している。さらに，科目区分，必修・選択の別，単位数等については，学部要覧に記載するとともに，授業計画（シラバス）に明示されている。シラバスは学部ホームページに掲載されていることから，自宅においてもその内容を確認することができる。

〈生物資源科学研究科〉

教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針については，大学院要覧，大学院ガイドブック及び学部ホームページに明示してある。すなわち，ホームページでは「教育課程編成・実施」のポリシーは「入学者受入れ」と「学位授与」のポリシーとともに明示し，教育目標と学位授与方針との整合性をはかっている。さらに，科目区分，必修・選択の別，単位数等については，大学院要覧に記載するとともに，授業計画（シラバス）に明示されている。シラバスは学部ホームページに掲載されていることから，自宅等学外からにおいてもその内容を確認することができる。

〈獣医学研究科〉

教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針については，大学院要覧，大学院ガイドブック及び学部ホームページに明示してある。すなわち，ホームページでは「教育課程編成・実施」のポリシーは「入学者受入れ」と「学位授与」のポリシーとともに明示し，教育目標と学位授与方針との整合性をはかっている。さらに，科目区分，必修・選択の別，単位数等については，大学院要覧に記載するとともに，授業計画（シラバス）に明示されている。シラバスは学部ホームページに掲載されていることから，自宅においてもその内容を確認することができる。

【点検・評価項目】

(3) 教育目標，学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が，大学構成員（教職員および学生等）に周知され，社会に公表されているか。

【評価の視点】

- ① 周知方法と有効性
- ② 社会への公表方法

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

教育目標については，学部要覧をはじめ，学部ホームページや学部発行の学園ニュースなどを通じて大学構成員（教職員及び学生等）に周知されている。教育目標に加えて，学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針については学部ホームページの「教育情報」の項目に記載されている。学部ホームページは，特に多くの受験生が閲覧し，

本学部を選択する際の参考にしていることから、大学構成員（教職員及び学生等）に周知されるばかりでなく、社会に公表されているといえる。

〈生物資源科学研究科〉

教育目標については、大学院要覧をはじめ、大学院ガイドブックや学部ホームページを通じて大学構成員（教職員及び学生等）に周知されている。教育目標に加えて、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針については学部ホームページの「教育情報」の項目に記載されている。学部ホームページや大学院ガイドブックは、受験生が閲覧し、本学研究科を選択する際の参考にしていることから、大学構成員（教職員及び学生等）に周知されるばかりでなく、社会に公表されているといえる。

〈獣医学研究科〉

教育目標については、大学院要覧をはじめ、大学院ガイドブックや大学院を含む学部ホームページを通じて大学構成員（教職員及び学生等）に周知されている。教育目標に加えて、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針については学部ホームページの「教育情報」の項目に記載されている。学部ホームページや大学院ガイドブックは、受験生が閲覧し、本学研究科を選択する際の参考にしていることから、大学構成員（教職員及び学生等）に周知されるばかりでなく、社会に公表されているといえる。

【点検・評価項目】

(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

【評価の視点】

- ① カリキュラム改定の検討

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性については、学部全体における定期的な検証は行っていないが、学科ごとに3つ（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）のポリシーを設定するにあたり、これらの方針の適切性を議論してきた。その結果として、学科の教育の目標や教育課程に合致させながら、時代の要請も勘案して学科のカリキュラムの改定へとつなげている。その結果として、平成21年に農芸化学科から生命化学科、食品科学工学科から食品生命学科へ、そして平成22年には食品経済学科から食品ビジネス学科へと学科名称の変更と、それに伴うカリキュラムの改定を行った。さらに、カリキュラムの検討を各学科で議論し、その結果いくつかの学科ではカリキュラムの平成25年度改定をめざして、その原案の編成・作成を行っている。

〈生物資源科学研究科〉

教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性については、学部全体における定期的な検証は行っていないが、専攻ごとに3つ（入学者受入れ、教育課程編成・実施、学位授与）のポリシーを設定するにあたり、これらの方針の適切性を議論してきた。平成12年の生物資源科学研究科への改組以来、数度のカリキュラムの改定を行ってきた。そして平成20年度開始の博士前期課程における生物資源科学特論Ⅰ（必修）と生物資源科学特論Ⅱ（選択）設置以来、カリキュラムの改定は行って

いない。

〈獣医学研究科〉

教育目標，学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性については，学部全体における定期的な検証は行っていないが，研究科における3つ（入学者受入れ，教育課程編成・実施，学位授与）のポリシーを設定するにあたり，これらの方針の適切性を議論してきた。

2. 点検・評価

〈効果が上がっている事項〉

〈生物資源科学部〉

平成21と22年度に学科名称及びカリキュラムの改定を3学科において行った。その後カリキュラムの検討を各学科で議論し，その結果いくつかの学科ではカリキュラムの平成25年度改定をめざして，その原案の編成・作成を行っている。

〈生物資源科学研究科〉

専攻ごとに3つのポリシー（入学者受入れ，教育課程編成・実施，学位授与）を設定するにあたり，これらの方針の適切性を議論してきた。そして，平成20年度にカリキュラムの一部変更を行った。この過程で，教育目標，学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について点検・評価した。

〈獣医学研究科〉

3つのポリシー（入学者受入れ，教育課程編成・実施，学位授与）を設定するにあたり，これらの方針の適切性を議論してきた。

〈改善すべき事項〉

〈生物資源科学部〉

教育目標，学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について，学部全体としては定期的に検証を行っていない。

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

教育目標，学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について組織として定期的に点検・評価を実施していない。

3. 将来に向けた発展方策

〈効果が上がっている事項〉

〈生物資源科学部〉

学科主任により構成される学部のカリキュラム委員会において，カリキュラムの改定を議論してきた。その過程において各学科がそれぞれの学科の教育課程の編成・実施方針について検証を行ない，カリキュラム改定の是非について判断してきた。また，学科内のカリキュラム委員会等により定期的な検討を行っている学科もある（生命化

学科)。

〈生物資源科学研究科〉

学部における数学科におけるカリキュラム改定の過程での教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性の議論が研究科へ波及することにより、効果が上がった。

〈改善すべき事項〉

〈生物資源科学部〉

平成8年に学部名称の変更を行った。最近では平成21と22年に、3学科(生命化学科, 食品ビジネス学科, 食品生命学科)ではカリキュラムの改定と名称を変更した。今般各学科においてカリキュラムの改定の議論を行ってきたが、時代の要請や受験生の志望の動向を見極めながら、学部全体として学部名称を含む議論を行う。

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

研究科としての、将来の発展方策に対する議論を行うこと。

4. 根拠資料

〈生物資源科学部〉

学部要覧, 学部ホームページの教育情報の項目

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

大学院要覧, 大学院ガイドブック, 学部ホームページ

IV-2 教育課程・教育内容

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

【評価の視点】

- ① 必要な授業科目の開設状況
- ② 順次性のある授業科目の体系的配置
- ③ 専門教育・教養教育の位置づけ（学士）

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

それぞれの学科における必要な授業科目については適正に開設され、年次ごとに修得するように配置されている。学科によっては、当該学問の進展に伴う知識多様化や資格取得のために学科内にコースが設定されている。海洋生物資源科学科と生物環境工学科においては、日本技術者教育認定機構認定のJABEE資格（修習技術者）修得のためのコースが設けられている。また、授業科目修得の順序性を確保するねらいから、「履修モデル」を学科ごとに作成し、科目の体系化を図っている。専門教育と教養教育の関連性を円滑にする主旨から、基礎専門科目を3科目設置し、相互の連携を強化している。

〈生物資源科学研究科〉

平成12年の生物資源科学研究科への改組以来、数度のカリキュラムの改定を行ってきた。平成20年度から複数の教員によるオムニバス講義である生物資源科学特論（必修）を生物資源科学特論Ⅰ（必修）と生物資源科学特論Ⅱ（選択）の2科目とし、専攻分野にとらわれない知識の教授を行うとともに、所属分野の関連科目の修得により修了要件を充足できることを図った。また、授業科目の体系化を図る上で、各専攻に4または5分野を設定し、分野ごとに特講と演習の科目のセットを2組編成することにより、順次性のある体系的科目配置を実現している。

〈獣医学研究科〉

教育領域を「獣医比較形態学分野」「獣医比較機能学分野」「獣医感染制御学分野」「獣医疾病予防学分野」「獣医病態制御学分野」「獣医病態情報学分野」の6つの分野として構成し、それぞれの分野の授業科目を体系的に配置するとともに付属家畜病院及び動物医科学センターと有機的な連携を行い、高度な専門知識の教授を行っている。

【点検・評価項目】

(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

【評価の視点】

- ① 学士課程教育に相応しい教育内容の提供（学士）

- ② 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容（学士）
- ③ 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供（修・博士）
- ④ 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供（専門職）
- ⑤ 入学前教育の実施状況

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

教育課程の編成・実施方針に基づき、学士課程に相応しい教育内容を提供している。とくに初年次教育としては、学部全体にわたる「生物資源科学フィールド実習」を平成19年度より設置した。また同じ基礎専門科目として、「キャリアガイダンス入門」を平成24年度前期に、そして「キャリアガイダンス概論」を平成25年度後期に開設し、キャリア教育の構築をめざしている。さらに、高大連携に配慮した教育内容としては、学習支援センターにおいて学習の相談を行っているとともに、生物と化学の補習授業を平成23年度より開設した。入学前教育については、通信添削方式によるDVD教材を用い、推薦入学試験合格者に対し実施している。

〈生物資源科学研究科〉

各専攻の特講や演習を修得することにより修了することが可能である。これらの科目の多くは複数の教員によるオムニバス方式であり、幅広い分野の知識を吸収することができる。また各専攻から推薦された3名の学外の先端的研究者や著名な研究者による特別講義（5専攻×3名＝15名）を実施し、専攻に限定されない幅広い専門分野の高度化に対応した教育内容を提供している。

〈獣医学研究科〉

教育領域を「獣医比較形態学分野」「獣医比較機能学分野」「獣医感染制御学分野」「獣医疾病予防学分野」「獣医病態制御学分野」「獣医病態情報学分野」の6つの分野として構成し、附属家畜病院及び動物医科学センターと有機的な連携を行い、高度な専門知識の教授を行っている。また、斯界の著名な研究者を大学院講師として招聘し、専門性の高い大学院特別講義を開催している。平成23年度には国内の大学及び研究機関より3名、海外の大学及び研究機関より3名の講師を招聘し、専門分野の高度化に対応した教育内容を提供している。

2. 点検・評価

〈効果が上がっている事項〉

〈生物資源科学部〉

「生物資源科学フィールド実習」では、学生の所属学科実習とは異なるフィールドでの実習を受講できる機会となり、本学部の教育の多様性を体感し、修得することができる。「キャリアガイダンス入門」では、全学科の学生が受講し、自校教育や大学での「学び」についての初年次教育として有効である。

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

学外の先端的研究者や著名な研究者による特別講義により、専門分野の高度化に対応した教育内容を受講できることにより、効果が上がっている。

《改善すべき事項》

〈生物資源科学部〉

「生物資源科学フィールド実習」では受講学生の減少がみられることから、受講学生を増加させる方策を議論する。

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

オムニバス方式の講義は、複数の教員による多様な高度に専門分野の知識を教授できるが、いっぽう教員相互の有機的な関連性が希薄になるため、それが改善すべき点である。

3. 将来に向けた発展方策

《効果が上がっている事項》

〈生物資源科学部〉

各学科における「概論」や「基礎実験」により、初年次学生への大学における「学修」をきめ細かく教授し、また体験させることにより、高大連携に配慮した授業科目を提供している。

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

オムニバス方式の講義及び大学院特別講義により、複数の教員による多様な高度に専門分野の知識を教授できる。

《改善すべき事項》

〈生物資源科学部〉

入学前教育については、通信添削方式によるDVD教材を推薦入学試験合格者に対し実施している。その実効性を検証する必要があるため、その検証方法について議論しなければならない。

〈生物資源科学研究科〉

生物資源科学研究科は5専攻からなり、学部10学科に対する2階建て方式ではない。学部での異なる教育実績背景を持つ大学院学生に対する、高度に専門性のある内容の講義を提供することの困難さがある。

4. 根拠資料

〈生物資源科学部〉

生物資源科学フィールド実習の資料、キャリアガイダンスのシラバス、リメディアル授業の資料

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

大学院特別講義一覧表

IV-3 教育方法

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 教育方法および学習指導は適切か。

【評価の視点】

- ① 教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
- ② 履修科目登録の上限設定，学習指導の充実
- ③ 学生の主体的参加を促す授業方法
- ④ 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（修・博士）
- ⑤ 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専門職）

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

教育目標の達成に向けて、各学科により講義・演習・実験等が実施されている。下級学年における演習や実験は必修としている。また、いくつかの学科では必修選択にしている学科もあるが、それぞれの学問の進展やカバーする学問分野の多様化に対応するべく科目を設置している。学外実習やインターンシップの科目は、進路や就職に向けての実務経験のための科目であり、学生は主体的に参加している。学習指導の充実を計るために、履修科目登録の上限設定を平成25年度入学者から実施する。高学年においては、少人数制のゼミナール形式の演習を各学科で行っている。この科目ではパソコンを使用し、パワーポイントを利用したプレゼンテーションによる発表形式を採用している。学生の参加型であり、主体性が要求される科目である。

〈生物資源科学研究科〉

各専攻は複数の分野の教員から構成されている。このことから、博士前期課程及び博士後期課程における研究指導や学位論文作成指導は、研究室単位できめ細かく行われている。そして、研究科で開催する学位論文発表会にいたるまでに、研究室そして専攻内での予備的な発表会を実施し、内容の充実した論文の完成をめざす体制が整備されている。

〈獣医学研究科〉

大学院入学時に研究計画を作成し、それに基づいた指導計画をたてて指導にあたっている。研究領域においても「獣医比較形態学分野」「獣医比較機能学分野」「獣医感染制御学分野」「獣医疾病予防学分野」「獣医病態制御学分野」「獣医病態情報学分野」の6分野に所属する教員が、附属家畜病院及び動物医科学センターの教員と連携を保ち、指導を行っている。さらに、年に1回の科内の研究発表会を行い、獣医学研究科に属する全教員によりアドバイスを提供している。学位論文作成にあたっては、専門領域を担当する複数教員により指導が行われている。

【点検・評価項目】

(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。

【評価の視点】

- ① シラバスの作成と内容の充実

② 授業内容・方法とシラバスとの整合性

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

シラバスの作成と内容の充実については毎年見直しを行っている。授業回数ごとの時間の内容記載の充実と、学習目標や成績評価基準の記載の徹底化により教員ごとの内容の多寡は少なくなり充実した。そして、授業内容・方法とシラバスとの整合性が計られている。しかしながら、この整合性の確保については、各教員に依存し、学部全体での検証は行なっていない。

〈生物資源科学研究科〉

シラバスの作成と内容の充実については毎年見直しを行っている。授業回数ごとの時間の内容記載の充実と、学習目標や成績評価基準の記載の徹底化により教員ごとの内容の多寡は少なくなり充実した。そして、授業内容・方法とシラバスとの整合性が計られている。しかしながら、この整合性の確保については、各科目担当者に依存し、研究科全体での検証は行なっていない。

〈獣医学研究科〉

シラバスの作成と内容の充実については毎年見直しを行っている。授業回数ごとの時間の内容記載の充実と、学習目標や成績評価基準の記載の徹底化により教員ごとの内容の多寡は少なくなり充実した。そして、授業内容・方法とシラバスとの整合性が計られている。しかしながら、この整合性の確保については、オムニバス方式を採用している関係上各科目担当者に依存し、研究科全体での検証は行なっていない。

【点検・評価項目】

（3）成績評価と単位認定は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
- ② 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
- ③ 既修得単位認定の適切性

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

厳格な成績評価，すなわち評価方法や評価基準は，科目ごとにシラバスに明示してある。単位制度の趣旨に基づく単位認定方法としてG P A制度を採用しており，これに基づき単位認定が厳正に行われ，結果として単位認定の適切性及び公平・公正な成績評価が行われている。また，既修得単位の認定についても学則を前提にした申し合せや取扱要領に基づき，適正かつ厳格な単位認定が行われている。

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

成績評価の方法や基準は大学院授業計画（シラバス）に記載され，大学院学生に明示している。

【点検・評価項目】

(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

【評価の視点】

① 授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

授業の内容及び方法の改善を図るための全学部による組織的研修やその研究は実施していない。しかし、学科によっては演習委員会や学生実験委員会などにより解析した結果に基づき定期的な検証を行っており（植物資源科学科，生命化学科，海洋生物資源科学科，生物環境工学科），その結果を教育内容や方法の改善に結びつけている。学部全体としては，学生による授業アンケートは各教員あたり少なくとも1科目に対して行われていて，その結果は集計後教員へフィードバックされている。

〈生物資源科学研究科〉

授業の内容及び方法の改善を図るための組織的研修・研究については実施していない。しかし，教育成果については博士後期課程では，専攻内における研究の進展状況の定期的な中間発表を行い検証している。博士前期課程においては，研究科全体で行う修士論文発表会により検証している。また，その成果は「修士論文発表会要旨集」として冊子にまとめ，公開している。さらに，博士前期・後期課程の大学院学生が発表者または筆頭著者となり国内外での学会及び論文で発表していることは教育成果である。

〈獣医学研究科〉

教育成果についての定期的な検証は行っていないが，その結果は博士課程においては，専攻内における研究の進展状況の中間発表を行い検証している。また，大学院学生による学会発表や論文の公表は教育成果の検証の一端となる。

2. 点検・評価

〈効果が上がっている事項〉

〈生物資源科学部〉

学科内での委員会を設置し，その解析に基づき定期的な検証を行なっている複数の学科においては，その結果を教育内容や方法の改善に結びつけている。海洋生物資源科学科や生物環境工学科では，教員に対する学生の意見によるベストティーチャー賞を設け，教員の教育内容や方法の改善に役立っている。

〈生物資源科学研究科〉

博士前期・後期課程の大学院学生が発表者または筆頭著者となり国内外での学会及び論文で多数発表している。

〈獣医学研究科〉

大学院学生が発表者または筆頭著者となり国内外での学会及び論文で多数発表していることにより，効果が上がっている。

《改善すべき事項》

〈生物資源科学部〉

学生による授業アンケートを行っている。しかし、現在はこれらの結果に基づく組織的な検証は行っていない。

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

授業の内容及び方法の改善を図るための組織的研修・研究は実施していない。

3. 将来に向けた発展方策

《効果が上がっている事項》

〈生物資源科学部〉

J A B E E 資格に対応する学科（海洋生物資源科学科や生物環境工学科）においては、毎年定期的に教育内容や方法の改善に取り組んでいる。

〈生物資源科学研究科〉

博士前期・後期課程の大学院学生が発表者または筆頭著者となり国内外の学会及び論文発表を行う機会を多く設定すること。

〈獣医学研究科〉

大学院学生が発表者または筆頭著者となり国内外の学会及び論文発表を行う機会を多く設定することにより、効果が上がっている。

《改善すべき事項》

〈生物資源科学部〉

授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び定期的な検証を現在実施していない学科に対して、活動の範囲を広げる。

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

授業の内容及び方法の改善を図るための組織的研修・研究について実施する方策を議論すること。

4. 根拠資料

〈生物資源科学部〉

学科の教育懇談会資料

〈生物資源科学研究科〉

2010と2011年度学会発表一覧

〈獣医学研究科〉

シラバス

IV-4 成果

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。

【評価の視点】

- ① 学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
- ② 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

教育目標に沿った学生の学習成果を測るための評価指標の開発は行っていない。学生の自己評価及び就職先による評価についても学部として組織的には行っていない。しかし学科ごとに評価していて、4年次学生による卒業時の評価を数年にわたり集積している学科（動物資源科学科、海洋生物資源科学科）もあり、その結果はカリキュラム改定への資料としている。また卒業生の社会での活躍状況については、キャリアガイダンスや就職関連における授業・演習における卒業生による講師選定にも関連することから、教員間での情報交換が行われている。

〈生物資源科学研究科〉

大学院学生の学習成果を測定するための評価指標の開発は行っていないが、博士前期・後期課程の大学院学生が発表者または筆頭著者となり国内外の学会における発表及び論文発表の機会が増加していることは、学習の成果を評価する手段の1つといえる。

〈獣医学研究科〉

大学院学生の学習成果を測定するための評価指標の開発は行っていないが、大学院学生が発表者または筆頭著者となり国内外の学会における発表及び論文発表の機会が増加していることは、学習の成果を評価する手段の1つといえる。

【点検・評価項目】

(2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 学位授与基準、学位授与手続きの適切性
- ② 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（修・博士，専門職）

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

定期試験後の成績登録はWebにより各科目担当教員により行われ、教務課により各学生の「単位履修表」が作成される。これらに基づき、各学科での確認を慎重かつ厳正に行う。結果として、学位授与手続きは学位授与基準に基づき、適切に行われている。

〈生物資源科学研究科〉

Web登録による担当教員からの単位認定の仕組みとともに、博士後期課程においては、学位授与基準及び学位授与手続きは「日本大学大学院生物資源科学研究科における学位（博士）申請手続（申合せ）」に基づき、論文公表確認、専攻内、研究科における発表会の実施により客観性・厳格性は確保されている。また、博士前期課程においては、研究科全体での論文発表会と専攻内での担当教員による修了認定により、客観性・厳格性が確保されている。

〈獣医学研究科〉

Web登録による担当教員からの単位認定の仕組みとともに、博士課程においては、学位授与基準及び学位授与手続きは「日本大学大学院獣医学研究科における学位（博士）申請手続（申合せ）」に基づき、論文公表確認、研究科における発表会の実施により客観性・厳格性は確保されている。また、研究科全体での論文発表会と担当教員による修了認定により、客観性・厳格性が確保されている。

2. 点検・評価

〈効果が上がっている事項〉

〈生物資源科学部〉

定期試験後の成績登録はWebを利用して行われるため、事務手続きの時間的な削減は達成され、学位授与手続きが適切に行うための確認等に対応できることになった。

〈生物資源科学研究科〉

博士後期課程においては、学位授与基準及び学位授与手続きは「日本大学大学院生物資源科学研究科における学位（博士）申請手続（申合せ）」に基づき、論文公表確認、専攻内、研究科における発表会の実施により客観性・厳格性が確保されている。

〈獣医学研究科〉

博士課程においては、学位授与基準及び学位授与手続きは「日本大学大学院獣医学研究科における学位（博士）申請手続（申合せ）」に基づき、論文公表確認、専攻内、研究科における発表会の実施により客観性・厳格性は確保されている。

〈改善すべき事項〉

〈生物資源科学部〉

機械的処理が増加したことにより、処理過程でのミスが発見を含めた確認の必要性が重要視されるので、その方策を講じなければならない。

3. 将来に向けた発展方策

〈効果が上がっている事項〉

〈生物資源科学部〉

定期試験後のWeb成績登録により、単位修得状況がより早く把握できるようになり、事務的な軽減となり、卒業認定を適切に行うことにつながっている。

〈生物資源科学研究科〉

博士前期・後期課程とも、研究科全体で行う論文発表会の実施は客観性・厳格性を確保するために効果が上がっている。

〈獣医学研究科〉

生物資源科学研究科とともに研究科全体で行う論文発表会の実施は客観性・厳格性を確保するために効果が上がっている。

〈改善すべき事項〉

〈生物資源科学部〉

機械的処理が増加したことにより、処理過程でのミスの発見を含めた確認の必要性が重要視されるので、その方策を講じなければならない。

4. 根拠資料

〈生物資源科学研究科〉

修士論文発表会要旨集

V. 学生の受け入れ

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

【評価の視点】

- ① 求める学生像の明示
- ② 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示
- ③ 障がいのある学生の受け入れ方針

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

アドミッション・ポリシーは、あらゆる機会を通して公開している。受験者向け「生物資源科学部ガイドブック」「2013年度版 Q & A 入試ガイド」にはもちろんのこと、学部ホームページの「教育情報」には、入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)を明示し周知している。また、学科ごとの教育研究上の目的も公開しており、これによって求める学生像と、その育成目標も明示している。

入学するにあたり習得しておくべき知識等の内容・水準を知らしめる方法として、推薦入学合格者には、当該学科から入学前教育として推薦図書を提示しての感想文や、過去の入学試験問題解説などを課している。また、全学科ともシラバスを公開しており、その中には「準備学習の内容・履修条件」で事前に習得しておくことが好ましい準備学習を明記している。

本学部は、理系で実験実習が多いことから、障がいのある志願者には、受験前に「事前協議」を行っている。事前協議とは、志願者及び保護者(高校の担任が同伴する場合もある)に本学部まで来校してもらい、志望学科における実験実習科目の内容などを志望学科の主任・学務担当(入試管理委員長・一般教養主任・教務課長・入試担当者が陪席)から詳細に説明して、障がいが入学後に当該科目の受講が可能か否かを当人に判断してもらい、志願者自身とその保護者及び学科主任の3者が、受講可能と判断される場合に限り受験を許可している。(合格した場合は入学を許可する)

〈生物資源科学研究科〉

アドミッション・ポリシーは、あらゆる機会を通して公開している。受験者向け「大学院ガイドブック」にはもちろんのこと、学部ホームページの「大学院」には、入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)を明示して周知している。また、専攻ごとの教育研究上の目的も公開しており、これによって求める大学院学生像と、その育成目標も明示している。

入学するにあたり習得しておくべき知識等の内容・水準を知らしめる方法として、毎年7月中下旬に実施する「大学院説明会」で学務担当及び各専攻主任が研究科の理念・目標の他、各専攻の受け入れ方針などの説明を行っている。

〈獣医学研究科〉

アドミッション・ポリシーは、あらゆる機会を通して公開している。受験者向け「大学院ガイドブック」にはもちろんのこと、学部ホームページの「大学院」には、入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)を明示して周知している。また、専攻ごと

の教育研究上の目的も公開しており、これによって求める大学院学生像と、その育成目標も明示している。

入学するにあたり習得しておくべき知識等の内容・水準を知らしめる方法として、毎年7月中下旬に実施する「大学院説明会」で学務担当及び専攻主任が研究科の理念・目標の他、専攻の受け入れ方針などの説明を行っている。

【点検・評価項目】

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【評価の視点】

- ① 学生募集方法、入学者選抜方法の適切性
- ② 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

学生の募集方法・入学者選抜方法は、学部ホームページの「受験生の皆さんへ」、受験生向け「2013年度版 Q&A入試ガイド」に明記して公開している。また、年間2回3日間実施しているオープンキャンパスの「学科別個別相談」「入試制度コーナー」、学部祭開催時の「学科別個別相談」で周知し、受験の機会均等を図っている。

また、入試に関するすべての事案は、入試管理委員会で検討して、最終的には教授会に諮って決定することによって適切性の検証や、選抜方法の透明性の確保を担保している。

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

学生の募集方法・入学者選抜方法は、学部ホームページの「大学院」、受験生向け「大学院ガイドブック」に明記して公開している。

また、入試に関するすべての事案は、入試管理委員会で検討して、最終的には大学院分科委員会に諮って決定することによって適切性の検証や、選抜方法の透明性の確保を担保している。

【点検・評価項目】

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

【評価の視点】

- ① 収容定員に対する在籍学生数比率の適切性
- ② 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

新入生の収容定員は、募集定員の1.10に設定し、1.15を越えないように合否判定を行っている。そして、収容定員に対する在籍学生数比率は1.25を越えないように設定している。しかし、平成22年度から25年度にかけて1.15となるように在籍者数の管理を行っている。定員に対する在籍学生数の管理は、入学手続き者に休学からの復学者数及び再履修者数の過去3カ年の平均人数を加えた学生数を管理学生数としている。こ

の数字が定員の1.25に満たない場合は、短期大学部からの編入学者募集数としている。また、1.25を越える場合は、4年間の総学生数で調整しており、最終的には各学年とも1.25を越えないように調整している。

〈生物資源科学研究科〉

新入生の収容定員は、研究科としての合計募集定員の100%を目標としている。博士前期課程は、ほぼ100%であるが、博士後期課程は約43%と少なく、その充足率の達成が望まれる。

〈獣医学研究科〉

新入生の収容定員は、研究科としての募集定員の100%を目標としており、充足率は130%で、少し多い。

【点検・評価項目】

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

【評価の視点】

指定なし

点検・評価結果

〈生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

新年度のはじめに、入試管理委員会で前年度入試全般について検証を行っている。

2. 点検・評価

〈効果が上がっている事項〉

〈生物資源科学部〉

本学部学科の社会的な評価、すなわち大学偏差値が高まってきており、C方式(大学入試センター試験利用入試)の手続き者の急増や、国立大との併願者の手続き率増加など在学生のレベルがアップしてきた。

3. 将来に向けた発展方策

〈効果が上がっている事項〉

〈生物資源科学部〉

本学部の大学偏差値が高まってきており、さらにこれを高めることを目指す。

4. 根拠資料

〈生物資源科学部〉

2013年度 Q & A 入試ガイド

生物資源科学部 ガイドブック

学部ホームページ 教育情報

<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/education/education.html>

<生物資源科学研究科・獣医学研究科>

大学院要覧

大学院ガイドブック

学部ホームページ

研究領域と特徴 <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~gs/kenkyu.html>

研究科長挨拶 <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~gs/hajime.html>

大学院研究科における教育研究上の目的

http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~gs/object_main.html

教育情報

<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/education/education.html>

VI. 学生支援

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。

【評価の視点】

- ① 学生に対する修学支援，生活支援，進路支援に関する方針の明確化

点検・評価結果

〈生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

学内外の各種奨学金への周知を積極的に行い、経済的困窮学生に対する支援を拡大し、また進路支援の充実もはかっている。これらの支援方法については、学部生要覧等で明確化している。

【点検・評価項目】

(2) 学生への修学支援は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性
- ② 補習・補充教育に関する支援体制とその実施
- ③ 障がいのある学生に対する修学支援措置の適切性
- ④ 奨学金等の経済的支援措置の適切性

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

再履修者及び休・退学者の状況については、学級担任と学科主任を經由した書類に基づき学科主任会及び教授会において詳細に報告し、状況を把握している。再履修者に対する支援体制としては、学級担任や研究室指導教員により、履修指導や進路相談などを行い学習面と学生生活面でのきめ細かな支援を実施している。補習教育については、学習支援センターを設置するとともに化学と生物では2名の教員（元高等学校教諭）により補習授業を実施している。学外組織との連携協力による教育研究の推進を行っている。

現在、障がいのある学生は在籍していない。学内はバリアフリーの施設となっており、車いす学生には対応可能となっている。また、かつて在籍した難聴学生のノートテイクや車いす学生の介助支援は同級生がそれにあたったこともある。さらに、難聴学生には専門のノートテイクを同席させる措置もとっていた実績もある。

学生への奨学金情報提供は、日本学生支援機構奨学金においては4月に説明会を開催し、他の奨学金については学内掲示板，ホームページ，学内放送，教員による呼びかけ等での広報を積極的に行っている。

学部後援会奨学金及び校友会奨学金があり、経済的困窮者に対する支援を行っている。

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

主として大学院学生の所属する研究室の教員によって行われている。

【点検・評価項目】

（３）学生の生活支援は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮
- ② ハラスメント防止のための措置

点検・評価結果

〈生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

学生の生活支援においては、学生の心身の健康保持及び安全・衛生の確保及びハラスメントの防止に務めている。学生相談については、相談室に月～金でカウンセラーが1名～2名常駐し日7時間開室している。隣接したフリースペースも月～金でカウンセラーが在室時に開放しており、相談室利用回数は全体で延べ715回となっている。

平成20年度より、実験・実習の安全対策及び麻疹（はしか）感染防止のための「学生事故防止マニュアル」を作成し、事故防止に努めている。

また、学生食堂のサービス向上のために学生アンケートを実施し、その要望に沿って食堂施設の改修を行った。

【点検・評価項目】

（４）学生の進路支援は適切に行われているか。

【評価の視点】

- ① 進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施
- ② キャリア支援に関する組織体制の整備
- ③ 関連国家試験対策及び合格率

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施は、平成23年度は、キャリアデザイン講座（7回、延390名参加）、2年生就職ガイダンス（2回×2、延273名）、就職ガイダンス（5回×2、延3,583名）などを含む76行事を実施し、延20,314名が参加した（人数は短期大学部及び大学院学生を含む）。またOB・OGによる職場体験講座などの行事を各学科が実施し、進路指導を行っている。

また、キャリア支援は主に就職指導課が担当し、併設の就職資料室において個別に学生の就職指導に当たっている。一方、関連国家試験対策及び合格率では、平成23年度は、国家公務員Ⅰ種試験対策としては、日本大学公務員支援センター主催の教養講座（基礎講座及び実践講座、延334コマ実施、142名受講）及び農学専門講座（6区分、33回、63名）を実施した。また同Ⅱ種試験などの対策としては、生物資源科学部主催の基礎講座（34コマ、199名）、実践講座（34コマ、100名）、合格完成講座（40コマ、39名）及び直前講座（30コマ、41名）を実施した。平成23年度の合格者は、国家Ⅰ種で1名、国家Ⅰ種相当職で2名、国家Ⅱ種で1名及び国家Ⅱ種相当職で1名であった。

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

進路選択に関わる指導・ガイダンスは、平成23年度は、大学院就職ガイダンス（5

回、延141名参加)などを含む76行事を実施し、延20,455名が参加した(人数には生物資源科学部及び短期大学の学生を含む)。

キャリア支援は主に就職指導課が担当しており、併設の就職資料室において個別に学生の就職指導に当たっている。

一方、関連国家試験対策は、平成23年度に国家公務員Ⅰ種試験対策として日本大学公務員支援センター主催の教養講座(基礎講座及び実践講座、延334コマ実施、142名受講)及び農学専門講座(6区分、33回、63名)を実施した(人数は生物資源科学部の学生を含む)。平成23年度の国家Ⅰ種及び国家Ⅰ種相当職に合格者は含まれなかった。

2. 点検・評価

《改善すべき事項》

〈生物資源科学部〉

奨学金原資には限りがあるため、昨今の経済状況の悪化から、奨学金を希望する学生へ十分な支援が行き渡らない。後援会・校友会奨学金における申請者受給率は、38.1%(平成23年度)となっており、今後、奨学金原資を増やす方策が必要である。

学生相談に関する情報を学生相談室、教員、学生課などでまだ全て共有していない。多様化した相談に多くの情報が必要である。

生物資源科学部では多数の就職行事を実施しているが、就職に対する意識が低く、これらの行事に参加しない学生がかなりの割合で存在しているため、これらの学生の意識向上が改善すべき点といえる。そのため、平成23年度から学科の要請に応じて就職指導担当や就職指導課員が各学科に出向いて臨時の就職ガイダンスを実施している。

〈生物資源科学研究科〉

大学院生物資源科学研究科では生物資源科学部とともに多数の就職行事を実施しているが、就職に対する意識が低く、これらの行事に参加しない学生がかなりの割合で存在している。これらの学生の意識向上が改善すべき点といえる。

3. 将来に向けた発展方策

《改善すべき事項》

〈生物資源科学部〉

今後、後援会・校友会奨学金原資の増額をはかっていく。

守秘義務や人権擁護との兼ね合いで、学生相談室から個人情報などを全て発していくことは難しいため、教員あるいは学生課から個別に学生相談室と連携していくなど、方策を検討する。平成21年度より学生相談協議会の開催を年2回から4回に増やし、平成24年度も継続している。

Ⅶ. 教育研究等環境

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

【評価の視点】

- ① 学生の学習および教員による教育研究環境整備に関する方針の明確化
- ② 校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画
- ③ 正規カリキュラム以外での教育環境の整備

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

学生の学習及び教員による教育研究環境整備に関する方針は、年度初めに学部長の施策方針が執行部会及び学科主任会・教授会で説明されて明確化している。また、校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画は、次年度予算の編成時に組み込まれ、執行部会で議論し、学科主任会・教授会に諮られ、明確化されている。

一方、正規カリキュラム以外での教育環境の整備は、第一種委員会(学務・学生・研究・企画広報・就職指導)で議論されたものが、執行部会に上程されて検討され、整備計画に反映される。その内容は、研究の進展、社会貢献、研究成果の社会還元などである。

〈生物資源科学研究科〉

大学院学生の学習及び教員による教育研究環境整備に関する方針は、年度はじめに研究科長の施策方針が執行部会及び専攻主任会・大学院分科委員会で説明されて明確化している。また、校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画は、次年度予算の編成時に組み込まれ、執行部会で議論し、専攻主任会・大学院分科委員会で諮られ、明確化されている。

一方、正規カリキュラム以外での教育環境の整備は、第一種委員会(学務・学生・研究・企画広報・就職指導)で議論されたものが、執行部会に上程されて検討され、整備計画に反映される。その内容は、研究の進展、社会貢献、研究成果の社会還元などである。

〈獣医学研究科〉

大学院学生の学習及び教員による教育研究環境整備に関する方針は、年度はじめに研究科長の施策方針が執行部会及び専攻主任会・大学院分科委員会で説明されて明確化している。また、校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画は、次年度予算の編成時に組み込まれ、執行部会で議論し、専攻主任会・大学院分科委員会で諮られ、明確化されている。

一方、正規カリキュラム以外での教育環境の整備は、第一種委員会(学務・学生・研究・企画広報・就職指導)で議論されたものが、執行部会に上程されて検討され、整備計画に反映される。その内容は、研究の進展、社会貢献、研究成果の社会還元などである。

【点検・評価項目】

(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

【評価の視点】

- ① 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの形成
- ② 校地・校舎・施設・設備の維持・管理、安全・衛生の確保

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

生物資源科学部のキャンパスは、校舎・運動場・付属研究施設・農場・演習林等用地として1道4県に総面積 $27,638,487.55\text{m}^2$ (Ⓔ $27,559,921.30\text{m}^2$) の校地を共有している。このうちメインキャンパスである湘南校舎では、学生及び教職員にとって快適で安全性に優れた施設・環境，豊かな自然環境をベースとしたキャンパス・アメニティの向上を重点にキャンパス整備を展開している。(大学基礎データ)

〈生物資源科学研究科〉

大学院生物資源科学研究科は生物資源科学部のキャンパス内にあつて、校舎・運動場・付属研究施設・農場・演習林等用地として1道4県に総面積 $27,638,487.55\text{m}^2$ (Ⓔ $27,559,921.30\text{m}^2$) の校地を共有している。このうちメインキャンパスである湘南校舎では、学生及び教職員にとって快適で安全性に優れた施設・環境，豊かな自然環境をベースとしたキャンパス・アメニティの向上を重点にキャンパス整備を展開している。(大学基礎データ)

〈獣医学研究科〉

大学院獣医学研究科は生物資源科学部のキャンパス内にあつて、校舎・運動場・付属研究施設・農場・演習林等用地として1道4県に総面積 $27,638,487.55\text{m}^2$ (Ⓔ $27,559,921.30\text{m}^2$) の校地を共有している。このうちメインキャンパスである湘南校舎では、学生及び教職員にとって快適で安全性に優れた施設・環境，豊かな自然環境をベースとしたキャンパス・アメニティの向上を重点にキャンパス整備を展開している。(大学基礎データ)

【点検・評価項目】

(3) 図書館，学術情報サービスは十分に機能しているか。

【評価の視点】

- ① 図書，学術雑誌，電子情報等の整備状況とその適切性
- ② 図書館の規模，司書の資格等の専門能力を有する職員の配置，開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境
- ③ 国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

生物資源科学部の図書館は、経験豊かな司書とシステムエンジニアを配し、図書約30万冊，学術雑誌約4,600種，電子ジャーナル約3万タイトルが利用でき，閲覧席808席，学習支援用パソコンを完備した個人閲覧室やグループ学習室など学習・教育・研究に役立つ利用環境が充実している。

〈生物資源科学研究科〉

大学院生物資源科学研究科は生物資源科学部と共有の図書館をもち、経験豊かな司書とシステムエンジニアを配し、図書約30万冊、学術雑誌約4,600種、電子ジャーナル約3万タイトルが利用でき、閲覧席808席、学習支援用パソコンを完備した個人閲覧室やグループ学習室など学習・教育・研究に役立つ利用環境が充実している。

〈獣医学研究科〉

大学院獣医学研究科は生物資源科学部と共有の図書館をもち、経験豊かな司書とシステムエンジニアを配し、図書約30万冊、学術雑誌約4,600種、電子ジャーナル約3万タイトルが利用でき、閲覧席808席、学習支援用パソコンを完備した個人閲覧室やグループ学習室など学習・教育・研究に役立つ利用環境が充実している。

【点検・評価項目】

(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

【評価の視点】

- ① 教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備
- ② ティーチング・アシスタント（TA）・リサーチ・アシスタント（RA）・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備
- ③ 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

これまでに各種の学術研究助成事業により教育研究施設を整備してきた。また、附置機関の整備も現場を生かした実験実習並びに研究を充実させるために進められ、学部が重視するフィールドサイエンス教育を推進する上で大いに効果を発揮している。

〈生物資源科学研究科〉

当研究科に関連する附置機関・施設・設備の整備は学部と連携し、当該学科並びに当研究科に係る施設・設備（例えば総合研究所、生物環境科学研究センター、生命科学研究所など）の充実を進めてきている。

近年、大学院への進学率が上がる中、大学院学生に対する学習、研究支援としてTA制度を導入している。TAは年々志望者が増加してきたので、大学院・学部双方で支援の在り方を検討してTAの選抜試験を実施することにした。さらに、PA、RAなどの各種研究員制度などを進め支援の強化を計っている。

教員にとって学生の教育の実をあげることと研究を推進することは基本であり、そのための専念時間は各自の意識に任されている。本研究科としては、就業規則と合わせその点を常に確認して通達し研究教育で実があげられるよう配慮している。

〈獣医学研究科〉

生物資源科学部の附置機関としての家畜病院(動物病院)の他、動物医科学センター等の施設・設備を中心として整備充実を進めており、TA制度、RA制度、学部特別研究生制度はじめ各種奨学金制度も導入し大学院学生支援を充実させ教育研究の支援体制として整えてきている。また、教員に対しては研究費・研究室、研究専念時間等の確保についても支障はない。

【点検・評価項目】

(5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

【評価の視点】

- ① 研究倫理に関する学内規程の整備状況
- ② 研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

学部第一種委員会として「研究委員会」を設け、学術研究一般に関する課題の企画、運営等に対応している。

〈生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

研究の倫理規定の学内規定はまだ無い。本部のガイドラインを拠り所として、それにならぬ検討を始める。科研費、本部助成金、学部助成金、委託研究費など各種の資金を活用して研究が進められていることから、その使用、運用について研究倫理を徹底しなければならない。学内審査機関の設置を考えねばならない。

2. 点検・評価

〈効果が上がっている事項〉

〈生物資源科学部〉

東日本大震災を契機に、本学部所管施設の全てに対して危険度判定調査等を実施し、安全性を確認した。

電子ジャーナルの充実により、全文利用数が年々増加するという効果が表れている（資料1-2）。

3. 将来に向けた発展方策

〈効果が上がっている事項〉

〈生物資源科学部〉

緑豊かで広大な湘南校舎の魅力を存分に活かしながら、キャンパスにおける学生生活の拠点（スチューデントエリア）、講義・学習支援（アメニティ）エリア、研究・実験エリア、スポーツエリアなどのゾーニングのもと、地域との共生を目指す校地・校舎の整備を推進する。

今後、図書委員会を主体として、電子情報の更なる充実と図書館員・専門家による利用講習会を定期的で開催するとともに、大学院学生によるヘルプデスクを日常的に設置して学生参加型の学習支援や電子情報の利用促進を行う。

〈生物資源科学研究科〉

今後、図書委員会を主体として、電子情報の更なる充実と図書館員・専門家による利用講習会を定期的で開催するとともに、大学院学生によるヘルプデスクを日常的に設置して学生参加型の学習支援や電子情報の利用促進を行う。

《改善すべき事項》

〈生物資源科学部〉

学部研究委員会に中に、研究倫理に関する件と対応すべく「コンプライアンス小委員会」を設け検討することを考えている。

遠隔地に所在する校地・施設は附属研究施設・農場・演習林等として利活用しているが、実習等に供する年次的な更新を計画する。

また、学生の情報受発信・交流の場と学習意欲向上を誘うコラボレーション創発拠点となる“60周年記念棟（仮称）”の建設設計も完成を迎え、既存施設をも包含する環境配慮型、安心安全なキャンパス整備が進展している。

4. 根拠資料

〈生物資源科学部〉

大学基礎データ

1) T A 学生数動向・2) 学部特別研究員動向

1-1 2012 LIBRARY GUIDE（図書館利用案内）

1-2 電子ジャーナルタイトル数及び全文利用数の推移

〈生物資源科学研究科〉

2012 LIBRARY GUIDE（図書館利用案内）

電子ジャーナルタイトル数及び全文利用数の推移

Ⅷ. 社会連携・社会貢献

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

【評価の視点】

- ① 産・学・官等との連携の方針の明示
- ② 地域社会・国際社会への協力方針の明示

点検・評価結果

<生物資源科学部>

学部の「理念・目的」に示している。

<生物資源科学研究科>

学部並びに研究科の「理念・目的」に示されている。

<獣医学研究科>

点検評価項目 I の中で、研究科についても「理念・目的」に示されている。

【点検・評価項目】

(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

【評価の視点】

- ① 教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動
- ② 学外組織との連携協力による教育研究の推進
- ③ 地域交流・国際交流事業への積極的参加

点検・評価結果

<生物資源科学部>

教育研究の成果の社会還元では、各教員が所属する学協会における研究活動の成果を各自の業績一覧として公表している。学外組織との連携協力による教育研究の推進ではその業績一覧の中に「社会的活動」として教員各自の学外組織との連携による活動を記述している。地域交流では学内施設（資料館、生物環境科学研究センターなど）を利用した周辺地域との連携、交流を積極的に進めている。国際交流事業も国際地域研究所や動物医科学研究センターなどが国際的研究交流活動を進めている。

<生物資源科学研究科>

教員、研究者各自に業績一覧を随時Web上で公開し、その情報は常に各自が加筆更新することとなっており、各自が第三者から点検評価を受けられる状況にある。

<獣医学研究科>

当研究科においても学部、生物資源科学研究科同様、各教員の業績一覧の中で社会還元に関する事項（社会的活動）を記述公表することとしている。

2. 点検・評価

《改善すべき事項》

〈生物資源科学部〉

一部の教員に業績一覧が不完全な場合があるため、指摘し加筆を指導している。

3. 将来に向けた発展方策

《効果が上がっている事項》

〈生物資源科学部〉

この研究教育業績一覧が公開されていることにより委託研究，研究寄付金獲得への有効な資料と考えている。

Ⅹ. 管理運営・財務

Ⅹ－１ 管理運営

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。

【評価の視点】

- ① 中・長期的な管理運営方針の策定と大学構成員への周知
- ② 意思決定プロセスの明確化
- ③ 教学組織（大学）と法人組織（理事会等）の権限と責任の明確化
- ④ 教授会の権限と責任の明確化

点検・評価結果

<生物資源科学部>

学則第5条により教授会を置き、管理運営方針を含む教学上重要な事項を審議している。学部長の諮問機関としての各種委員会を設置し、そこで学部の諸問題について検討し、その結果を学部長が統括する執行部会、学科主任会で協議し、最終的に教授会で審議している。

<生物資源科学研究科・獣医学研究科>

学則第110条により分科委員会を置き、管理運営方針を含む教学上重要な事項を審議している。学部長の諮問機関として各種委員会を設けており、そこで学部（大学院を含む）の諸問題について検討し、その結果を学部長が統括する執行部会、専攻主任会で協議し、最終的に分科委員会で審議している。

【点検・評価項目】

(2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。

【評価の視点】

- ① 関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備とその適切な運用
- ② 学長、学部長・研究科長および理事（学務担当）等の権限と責任の明確化
- ③ 学長選考および学部長・研究科長等の選考方法の適切性

点検・評価結果

<生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科>

寄附行為を含む日本大学規程が整備され、日本大学教育職組織規程により、学部長等の権限が定められており、またその補佐体制も明文化され、これらを適切に運用する。また学部長は、学部長選挙規程により公明正大に選出される。

【点検・評価項目】

(3) 大学業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。

【評価の視点】

- ① 事務組織の構成と人員配置の適切性
- ② 事務機能の改善・業務内容の多様化への対応策
- ③ 職員の採用・昇格等に関する諸規程の整備とその適切な運用

点検・評価結果

〈生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

事務組織は、事務職組織規程に基づき編成され、学部事務分掌規程、職員の採用及び資格等に関する規程により能率的な運営を図っている。

【点検・評価項目】

(4) 事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。

【評価の視点】

- ① スタッフ・ディベロップメント（SD）の実施状況と有効性

点検・評価結果

〈生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

定期的に階層別、職域等による研修会を開催し、意欲・資質向上の伸展を促している。

Ⅹ－２ 財務

１．現状の説明

<生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科>

本学部では、教育・研究、管理運営に関する短・中・長期計画の下、事業を実施している。特に収入に見合う事業計画と費用対効果を重視しつつ、収支バランスの取れた財政構造の維持に重点を置き策定している。現在は、入学定員の確保、教育・研究指導体制の強化、財政及び組織基盤のさらなる健全化、創設60周年記念に係る施設整備計画の実施に取り組んでいる。

【点検・評価項目】

(1) 教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。

【評価の視点】

- ① 中・長期的な財政計画の立案
- ② 科学研究費補助金、受託研究費等の外部資金の受け入れ状況
- ③ 消費収支計算書関係比率および貸借対照表関係比率の適切性

点検・評価結果

<生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科>

毎年度予算編成及び決算時に、新規事業計画の設定及び既存計画の実行・見直しを確認しつつ、中・長期計画表を策定している。

また、科学研究費などの外部資金獲得を支援するための研究支援センターの設置はじめ、外部資金獲得状況に連動した成果研究費の導入及び学内研究費の活性化等、申請の拡大を図っている。

その中で、平成23年度実績。人件費比率39.7%、人件費依存率49.4%、教育研究経費比率42.2%、管理経費比率2.7%、消費支出比率100.1%、消費収支比率103.0%、学生生徒等納付金比率80.4%、補助金比率5.9%、基本金組入比率2.9%、自己資金構成比率95.8%、固定比率98.1%、固定長期適合率98.1%、流動比率144.8%、総負債比率4.2%、負債比率4.4%となっており適切である。

【点検・評価項目】

(2) 予算編成および予算執行は適切に行っているか。

【評価の視点】

- ① 予算編成の適切性と執行ルールの明確性、決算の内部監査
- ② 予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みの確立

点検・評価結果

<生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科>

法人本部の予算編成基本方針に基づき、学部予算編成基本方針を策定の上、編成にあたっている。決算の内部監査については、監事及び公認会計士により実施され、毎年度理事長宛に監査報告書及び意見書が提出される。

一方、学部内の営繕管財委員会等で重要度を勘案しつつ審議し、執行部会で決定後

予算執行している。また、目的別に予算・決算の内訳表を作成し、各部署・委員会等において執行に対する検証を行っている。

2. 点検・評価

《効果が上がっている事項》

〈生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

研究支援センターを設置し、科学研究費補助金、受託研究費等外部資金の獲得増加及び研究活動の活性化を図ったことにより、平成23年度は、科学研究費補助金、受託研究費、奨学研究寄付金、研究助成金において、前年同時期より増加した。

《改善すべき事項》

〈生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

中・長期的な財政計画において、大規模キャンパス整備事業等により、消費支出比率が100%を超える状況が続くことが見込まれるため、比率の改善に向けた取り組みが必要である。

3. 将来に向けた発展方策

《効果が上がっている事項》

〈生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

更なる外部資金獲得に向け、研究施設の組織再編、教員の外部資金導入に対する意識を高める機会、支援組織の充実を図る。

《改善すべき事項》

〈生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

財政状況の健全性・安全性を確保するため、学費改定及び経費の削減等、具体的取り組みにより改善を図る。

4. 根拠資料

〈生物資源科学部・生物資源科学研究科・獣医学研究科〉

1-1 外部資金の推移

X. 内部質保証

1. 現状の説明

【点検・評価項目】

(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。

【評価の視点】

- ① 自己点検・評価の実施と結果の公表
- ② 情報公開の内容・方法の適切性、情報公開請求への対応

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

学部の諸活動は、毎年実施している自己点検・評価や期末監査で点検・評価を行って、それを学部ホームページ上に教育研究上の基礎的情報として1.教育コンセプト、2.教育研究上の目的、3.学科概要、4.専任教員数、5.研究所等附属施設、6.授業料等の情報を公表している。さらに、修学上の情報として、1.学部組織、2.教員の学位・業績、3.入学者受入・教育課程編成・学位授与方針、4.入学者数・収容定員・在籍者数、5.シラバス、6.授業科目、7.履修モデル、8.取得可能な学位等に関する情報を公開して、文部科学省等の情報公開請求に対応している。現在、これらの公開情報をより見やすい内容に改定する作業を実施している。

〈生物資源科学研究科〉

生物資源科学研究科では現在、ホームページの改定作業をすすめており、情報公開請求等の要請があれば直ちに必要な情報を公開する用意がある。

〈獣医学研究科〉

今年度、私立獣医科大学5大学の協議会において、大学院教育・研究の充実と高度化を図る目的とした相互評価委員会が設立された。その調査項目である大学院教育・研究環境などの状況について平成19年から平成23年までの5年間における調査を行っている。平成25年3月に報告書を発刊予定である。

【点検・評価項目】

(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか。

【評価の視点】

- ① 内部質保証の方針と手続きの明確化
- ② 内部質保証を掌る組織の整備
- ③ 自己点検・評価を改革・改善に繋げるシステムの確立
- ④ 構成員のコンプライアンス（法令・モラルの遵守）意識の徹底

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

内部質保障システムに関しては、学務委員会や11学科の学科主任で構成する自己点検・評価委員会において適宜教育研究の内部質保障に取り組んでいる。また構成員の

コンプライアンスに関しても学部内のFD活動を通じて教職員の意識の徹底を図っている。

〈生物資源科学研究科〉

生物資源科学部と一体となってFD活動を実施しているため、現状では大学院独自の内部質保証システムは整備されていない状況にある。今後、組織の整備や構成員のコンプライアンスの遵守を含めて自己点検・評価のあり方について検討をすすめ、システムの確立を目指したい。

〈獣医学研究科〉

内部質保証の方針と手続き及び自己点検・評価を改革・改善に繋げるシステムについて、私立獣医科大学5大学の協議会と連携して、明確にし、確立を目指している。また、獣医学科と連携したFD委員会を設立し、外来講師によるセミナーを行い、構成員のコンプライアンス意識の徹底を図っている。

【点検・評価項目】

(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか。

【評価の視点】

- ① 組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実
- ② 教育研究活動のデータ・ベース化の推進
- ③ 学外者の意見の反映
- ④ 文部科学省および認証評価機関等からの指摘事項への対応

点検・評価結果

〈生物資源科学部〉

学部内にはFD委員会、自己点検・評価委員会をはじめ教育研究活動に関する様々な委員会が設置されており、これらの委員会の日常活動を通じて組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実・強化が図られている。教育研究活動のデータ・ベース化に関してはホームページ上の教育情報に、研究情報に関しては専任教員の研究業績をインターネット上で公表しており、適宜更新をおこなっている。また、FD活動やロールモデル活動の一環として学外の有識者や専門家を招聘して講演会や研究会を年数回開催し、それらの意見を自己点検・評価活動に反映させるよう努力している。

文部科学省、大学基準協会からの指摘事項・助言等に対しては迅速に対応するよう務めており、適宜改善が図られている。

〈生物資源科学研究科〉

生物資源科学部と連携したFD委員会のセミナー等を開催し、組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実を図っている。教育研究活動のデータ・ベース化に関しては構成員のReaDへの登録の充実を推進している。

〈獣医学研究科〉

獣医学科と連携したFD委員会のセミナー等を開催し、組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実を図っている。また、ReaDへの登録を充実させることにより教育研究活動のデータ・ベース化の推進を行っている。

2. 点検・評価

《効果が上がっている事項》

〈生物資源科学部〉

本学部では、内部質保証の一環としてフィールドサイエンス教育に重点を置いたカリキュラム（授業科目）としてフィールド実習（1年次）、海外フィールド研修（2, 3, 4年次）を実施しているが、学内外の4つの施設（農場、演習林、臨海実験所、富士自然教育センター）で実施する生物資源科学フィールド実習では学生のモチベーションが高く、またグローバル化に対応して、植物資源科学科、生命化学科、獣医学科、動物資源科学科、食品ビジネス学科、森林資源科学科、国際地域開発学科の7学科で実施している海外フィールド研修は学生の資質向上に大きく貢献している。

〈生物資源科学研究科〉

生物資源科学部自己点検・評価委員会では大学院を含めた点検・評価を実施しており、改善項目の把握や改善方法において成果が顕れている。

〈獣医学研究科〉

私立獣医科大学協会では獣医学教育・研究の充実を目的とし、平成6年度より相互評価委員会を設立し、大学院教育を含めた点検・評価を行っているため、改善項目の把握や改善方法において成果が認められている。

《改善すべき事項》

〈生物資源科学部〉

内部質保証に必要な教育研究施設等に関して、60周年記念事業の一環として2012年夏から60周年記念棟の建設及び現1, 2, 3号館の改築作業が進む計画であり、これらの施設が建設されることによって内部質保障を含めて本学部の教育研究活動が大きく前進することが期待されている。

3. 将来に向けた発展方策

《効果が上がっている事項》

〈生物資源科学部〉

内部質保証実現に向けた取り組みの一つとして入学者数の制限（定員の1.15倍の遵守）と入学者の偏差値の向上に関して、過去2回の入学試験において顕著な成果が得られており、この成果をベースに内部質保障システムが円滑に機能しつつある。

〈生物資源科学研究科〉

大学院教育・研究環境などの状況について、私立獣医科大学協会からの依頼により平成19年から平成23年までの5年間に関して行っており、平成25年3月に報告書を発刊予定であることから、そこでの指摘事項に関しての更なる改善を図る。

《改善すべき事項》

〈生物資源科学部〉

特筆すべき事項はないが敢えて挙げるとすれば，学科及び各付属施設レベルでの自己点検・評価活動の活性化である。

〈生物資源科学研究科〉

大学院レベルでの更なるF D活動が必要である。

〈獣医学研究科〉

大学院教育・研究環境などの改善においてはF D活動が必要であることから，獣医学研究科でのF D活動の更なる活性化が必要である。

4. 根拠資料

生物資源科学部ホームページ教育情報

評定一覧表

基準名		生物資源科学部	生物資源科学研究科	獣医学研究科
1	理念・目的	S	A	A
2	教育研究組織	A	B	B
3	教員・教員組織	B	B	B
4-(1)	教育内容・方法・成果 (教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針)	A	A	A
4-(2)	教育内容・方法・成果 (教育課程・教育内容)	B	B	B
4-(3)	教育内容・方法・成果 (教育方法)	B	B	B
4-(4)	教育内容・方法・成果 (成果)	B	B	B
5	学生の受け入れ	A	B	A
6	学生支援	B	A	B
7	教育研究等環境	B	S	S
8	社会連携・社会貢献	B	B	B
9-(1)	管理運営・財務 (管理運営)	B	B	B
9-(2)	管理運営・財務 (財務)	B	A	A
10	内部質保証	B	B	B

[注]

評定は、以下の基準を目安に付している。

- S－ 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標の達成度が極めて高い。
- A－ 概ね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的・教育目標もほぼ達成されている。
- B－ 方針に基づいた活動や目的・教育目標の達成がやや不十分である。
- C－ 方針に基づいた活動や理念・目的・教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。